

キルギス・ウズベキスタンの旅 2017年4-5月

A trip to Kyrgyzstan and Uzbekistan

2017.07.24 前田種雄

中村保氏からこの地域の情報が少ないので、書いてはとのお話があり**地域紹介を主目的**に簡単にまとめた。今回の旅は計7名(平均年齢73才)で14日間。前田は81才。退職後に自転車を始め、2006年にキルギスへ。以来キルギスに自転車で6回、旅で3回行っている。ここでは簡単な地図・写真を示し、**地図・写真の大きなファイルは別サイトにまとめ**、そこにリンクさせた。**地図 (maps) 写真 (photos)**をクリックするとリンク先が開きます。

キルギス国の呼称:正式名「キルギス共和国(Kyrgyz Republic)」。「キルギスタン」も通称として使われる。キルギスと呼ぶ場合、本来は民族としてのキルギス人を指す。外務省の呼称:「国名はキルギス、民族を指すときはキルギス人」。

キルギスのGDPの約3割はロシアなどへの出稼ぎ労働収入といわれる。タジキスタンも同様。これらの国の経済は当然ロシアの経済状況に大きく影響を受ける。

目次

1. 中央アジア諸国基礎データ
 2. 中央アジア諸国地図
 - 3-1. キルギス行程図
 - 3-2. ウズベキスタン行程図
 4. キルギス写真集
- (附) キルギス山岳協会会長の話
(附) キルギスの「嫁泥棒」「誘拐結婚」
5. ウズベキスタン写真集

拡大地図サイト (maps)

拡大写真サイト (photos)

写真は写真愛好家の森多嘉子さんから提供を受けました。感謝します。

1. 中央アジア諸国基礎データ

中央アジア諸国の基礎データ

(出所:「中央アジア・コーカサスと日本」外務省国内広報課 2008.12)

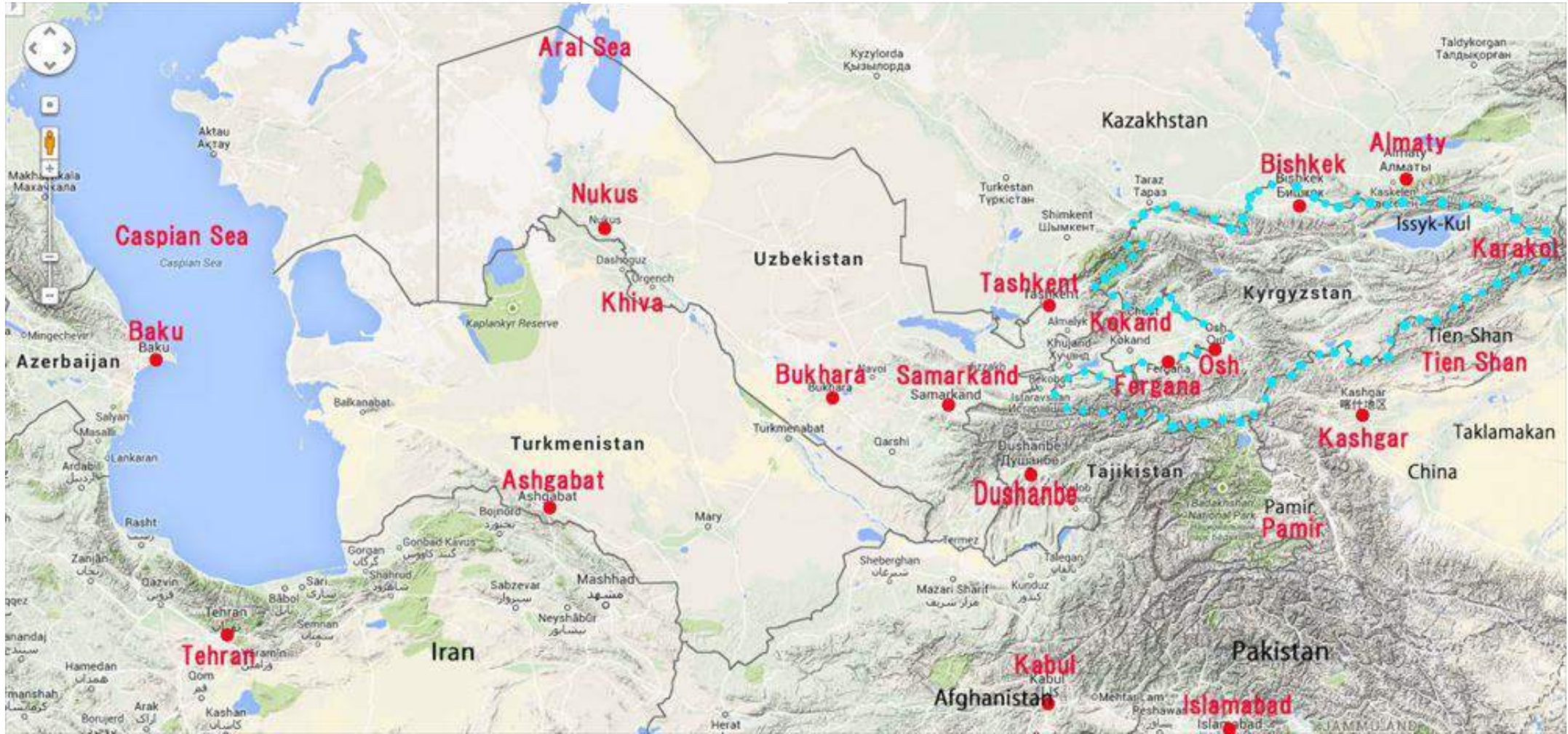
	Kyrgyzstan	Uzbekistan	Kazakhstan	Tajikistan	Turkmenistan	日本
首都	Bishkek	Tashkent	Astana	Dushanbe	Ashgabat	東京
人口(万人) (2007年)	540	2,740	1,540	670	500	12,800
面積(千km ²)	199	447	2,725	143	488	378
一人当たり GDP USD、2007年	730	858	6,743	513	1,930	34,252
民族	キルギス人 ウズベク人	ウズベク人 ロシア人5.5%	カザフ人58.9% ロシア人25.9%	タジク人64.9% ウズベク人	トルクメン人 ロシア人5.0%	
公用語	キルギス語 ロシア語	ウズベキ語 ロシア語	カザフ語 ロシア語	タジク語 ロシア語	トルクメン語 ロシア語	日本語

宗教(主として)イスラム教スンニ派

2. 中央アジア諸国地図



詳細地図はこちらに多数あり。



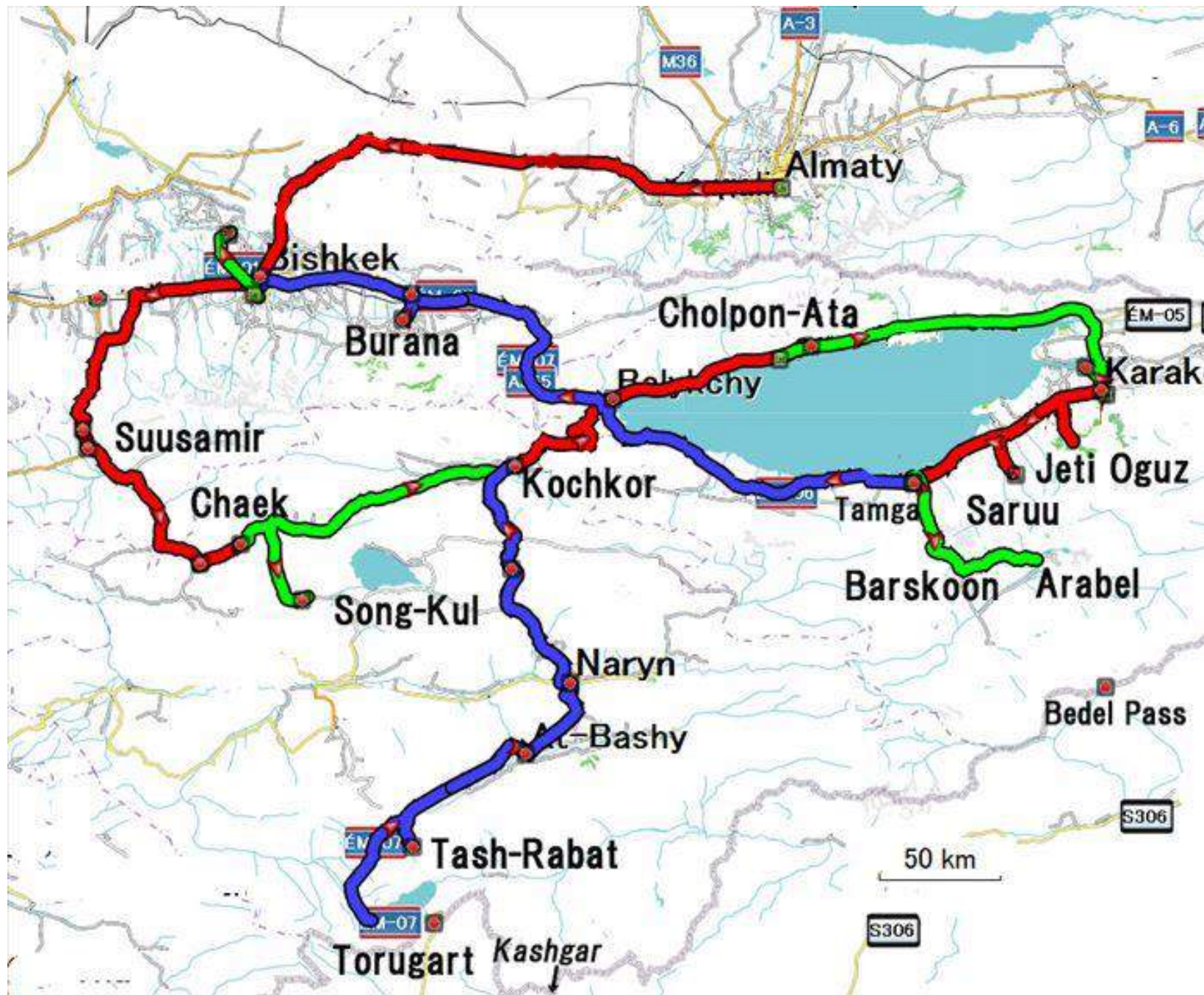
キルギス: 薄いブルーで囲んだ国。中国、カザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタンに接している。国土の多くは山岳地帯。天山山脈はキルギスと中国との国境にある。

今回の旅はイシククル湖を取り囲む地域で、花を見るには早かったが観光客も少なく残雪きれいだった。(4月末~5月上旬)

ウズベキスタンはキルギスの西隣の国。北西端にアラル海。

今回の旅では砂漠のオアシス ヒヴァ(Khiva)、ブハラ(Bukhara)、サマルカンド(Samarkand)を短期間訪ねた。

3-1. キルギス行程図



旅の行程。
成田→Incheon
→Almaty(泊) 車
→Bishkek→Suusamir
→Chaek(泊)→Song-Kul に向かうが残雪多く断念→At-Bashy(泊)
→Torugart、Tash-Rabat→Kochkor(泊)
→Cholpon-Ata(泊)
→Nikolai Przhevalsky Museum見学→Karakol(泊)→Jetti Oguz(乗馬)
→Tamga(泊)
→Barskoon/Arabel→Tamga(泊)
→Burana→Bishkek(泊)→Bishkek観光→飛行機→Tashkent(泊)
→ウズベキスタン観光

3-2. ウズベキスタン行程図



行程

Tashkent → 飛行機 → Urgench → Khiva (泊) → カラカルパクスタン共和国のKala (6-7世紀の都城の跡) 見物 → Kyzylkum 砂漠 → Bukhara (泊) → Kyzylkum 砂漠 → Samarkand (泊) → 電車 → Tashkent (観光) → 飛行機 → 翌日 Incheon → 成田

4. キルギス写真集

地域紹介を目的として、写真には過去のいくつかの時季のものも掲載。

Suusamir



Bishkekから西/南に向かい、Too Ashuu pass 標高約3100mにあるトンネル2.7km(写真)を越えたところがSuusamir大平原。

このトンネルは首都BishkekとOsh(キルギス南にある第2の都市)をつなぐ物流の大動脈。
トンネル前後の道路は立派な高速走行道路。



夏のSuusamirトンネル出口から

Song-Kul 湖



今回は残雪多くSong-Kul湖に行けず引き返す

夏のSong-Kul。海拔3016m。
開けた景色。
観光用のユルトも多い。
朝夕は牧畜が湖岸に集まる。
草原は一面のエーデルワイス。
エーデルワイスを踏まずに歩けない。

写真→



Torugart, Tash Rabat, At-Bashy



今回のTorugartへの道。素晴らしい舗装道路になっていたが、天気悪く天山の景色見えず。(森 多嘉子さん撮影)



夏の景色。中国KashgarからTorugart pass (3752m) 経由で冬期も中国製品が多量に輸送される。中国製品の中央アジアへの主要流通ルート。

BishkekにはDordoy Bazaarという巨大なバザールがありそこからKazakhstan, Russia, Uzbekistanに中国製品が輸送される。

かつては上の様な砂利道であったが、現在は左の様な立派な舗装道路。

トラックの運転手は左の様な素晴らしい天山山脈の景色を見ながら運転しているのだろうか？

冬期の景色はさぞかし素晴らしいだろう。

かつては砂利道を踏み外して横転しているトラックを多数見かけた。そして運転手達が懸命に仲間を助けていた。道路がよくなりそんな事故は大幅に減ったであろうが、交通量が大幅に増加している。





Tash Rabat (石の宿)
15世紀に建てられたキャ
ラバンサライ。
左:ドーム部
右:内部。かなり広い。牢
獄もある。



夏のTash Rabat
TrekkingコースとしてはTorugart
直下のChatyr-Kul湖(3530 m)
に行くものなどがある。
夏はハイキング客も多い。観光
ユルトもある。



At-Bashyの民宿の前の景色。
At-Bashy山脈。
子供達がこの草原で遊んでいた。
素晴らしい自然環境。



夏のAt-Bashy付近の景色。At-Bashy山脈。
自転車走行で見た景色。

Cholpon-Ata



Issyk-Kul湖北岸を見渡す広い敷地に「岩絵野外博物館」がある。
岩絵の前に立ち、前方はAlmaty方面、背中はIssyk-Kul湖。

Cholpon-Ata(金星の父)は、夏になるとロシア、中央アジア各国から観光客が集まる一大リゾート地。立派なリゾートホテルもある。



2016年世界遊牧民競技大会World Nomad Gamesが行われた施設。こんな立派な施設が出来ているとは驚いた。観光立国への意気込みか？ 行われた競技のYouTube。1000人コムズ演奏。World Nomad Games 2016紹介。(クリック/開く)



リゾートホテルの湖岸



リゾートホテルで昼食のシャシリク。経験10数年のアルメニア人の料理職人が市場で肉を仕入れ、大きな炉で太い木をくべて丹念に火加減し焼いてくれた。絶品。

Karakol

Issyk-Kul湖東端に位置するキルギス第4の都市。Pobeda, Khan Tengri峰への登山基地でもある。



←Issyk-Kul湖東端にある
Nikolai Przhevalsky
Museumに表示されていた
地図。
樹林の中にある立派な
Museum。



ロシア正教の聖三位一体
教会（森多嘉子さん撮影） →



2015年2月のIssyk-Kul湖
東端付近の大雪原。
孫二人はここで初めての
乗馬体験。
二度と経験できない、忘れ
られない体験でしょう。

今回5月には馬は高度の
高いところに移動していて
ここにはいない。
そこでJetti Oguzに行き乗
馬体験をした。

Jeti Oguz



Tamga

Jeti Oguzからトレッキングコースに沿って山の中に入り開けた草原で乗馬体験。楽しそう。



Issyk-Kul 南岸 右上がTamga方面



Tamgaの朝



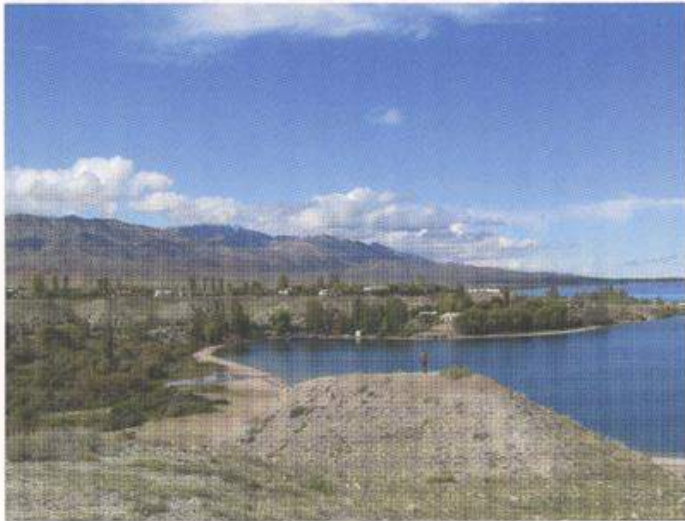
バルクチの港からイシク・クル湖を望む。ソ連邦（昭和21年当時）ウズベク共和国タシケントから貨車輸送でキルギス共和国フルンゼ（現ビジュケク）、トラック輸送でルバーチェ（現バルクチ）へ、そしてイシク・クル湖を汽船でダムガへ送られた



カラコルのイシク・クル大学の学生たちと



われわれ日本兵が造った建物には、歓迎の旗とバキーエフ大統領の肖像が飾られていた。今は泥治療院として使われている



ダムガの波止場跡。今は車社会とあって使われていない



「ダムガの大切なお客さまです」とキルギスの帽子を贈られる

Tamgaには抑留日本兵が125人いた。その一人宮野泰氏（1926年生まれ）は「タムガ村600日 キルギス抑留の記録」（新潟日報事業社）を2012年に刊行した。

刊行にはシルクロード雑学大学（歴史探検隊）の長澤法隆代表との出会いが大きなきっかけになった。

左上：宮野泰さん
右上：前列中央宮野さん、右端長澤さん
右中央：建設したサナトリウム

宮野氏は長澤代表等の支援を受け、2008、2010年にタムガを訪問した。抑留者が建てたサナトリウムが今も使われているのを見て、また彼らの勤勉な仕事ぶりが現地で今でも高く評価されていることを知って感激。

Issyk-Kul湖

琵琶湖の9倍、入る川はあるが出る川はない。不凍湖。海拔1,607 m。塩分濃度0.6%。水位約5cm/年低下。

井上靖は、65年と68年の2回、同湖行きを試みたが、当時のソ連外務省から許可されず、2度目のビザ申請の際には「軍事機密があるなら、湖までは目隠してもいい」と懇願したという。



Issyk-Kul湖南岸の景色。

北岸はCholpon-Ataを中心に観光地化されているが、南岸は自然が溢れ夏でも観光客は少ない。まるでプライベートビーチ。

雪山・氷河を見ながら泳ぐことができる。

南岸は道路が湖岸に近いのもよい。

Arabel, Barskoon

Barskoon, ArabelはTamgaから天山山脈、Bedel Pass(玄奘三蔵が越えたと云われる標高4284mの峠)へのルート上にある。Arabel Valleyは標高3600m~3750mの盆地で自転車で50km程度周囲の雪山・氷河を見ながら走行できる。東端にKumtor金鉱山があり、Barskoon, Arabelは冬期も通行可能。



5月のArabel。360度こんな景色。
前方棚田の様なところがKumtor金鉱山。
スキーを楽しんでいる人達もいた。



左Barskoon。
針葉樹がきれいなところ。
ハイキング基地。

右夏のArabel。
こんな景色を見ながら自転車走行50km。

Bedel Pass

2011年7月



左Bedelへの道。我々のトラック。

右途中の宿 Yshtyk。
前日積雪。



Bedel Pass に近づいたが到達出来ず。

Burana Tower、Ak Beshim



Bishkekの東
60km。
Buranaは10
～13世紀の
カラハン朝
の首都の一
つ、バラサグ
ンの遺跡と
推定されて
いる。

左石人



左Ak Beshim遺跡。
6～12世紀ごろの
碎葉城の遺跡。
唐代の「大唐西
域記」には三蔵法
師がこの地で突
厥の王と会談した
という記録が残っ
ている。



草原で会ったキルギス人の家族

キルギス山岳協会会長ウラジミール カミサロフさんの話

キルギス山岳協会会長のウラジミール カミサロフさん

・国土の 95% 以上は山岳地帯

・7000m 級： 3 座

・6000m 級： 46

・5000m 級： 260

・4000m 級： 数えていない

・4000m 以下： 丘、山と見なしていない

登攀された山：800

未踏峰 : 1000

彼は、数年前に At-Bashi 地域の未踏峰に単独で登り、妻の名前をつけた。

是非日本の皆さんも

キルギスの未踏峰に登って、お父さん、お母さん、奥様、旦那様
の名前をつけてください。

(登頂の許可申請も簡単で、費用も安い)

キルギス山岳協会 KYRGYZ ALPINE CLUB (クリックでリンク開く)

キルギスには未踏峰が1000もある
とのこと。

難しい登山技術なしで登れる未踏
峰もたくさんある。

皆さん是非キルギスに来て初登頂
し、自分の好きな名前をつけて下さ
い。

キルギスの「嫁泥棒」「誘拐結婚」

検証 キルギス政変 天山小国の挑戦 浜野道博著(東洋書店)p247

「あとがき 私のキルギス 2010年9月著者記」から

都市部では「嫁泥棒」はほとんどないといわれるがそれでも女子学生が突然いなくなり、時をおいて退学届がいつの間にか提出されたということを時折聞く。

加えて現代の「嫁泥棒」はキルギスの歴史や伝統とは直接関係のない根深い社会的現象であると私はみている。

農村の厳しい生活環境で若い嫁は家事労働の担い手としてなくてはならない存在である。十七、八歳で結婚し、多くの子供をもうけた主婦は四〇代後半になって末子が成人するころになると家事や「トイ(祝宴)」の支度が出来なくなるほど体力が衰える。一刻も早く末子に嫁をむかえねばならない。

しかし、子供の時から羊を追って生活してきた青年男子が突然嫁を見つけてくることは稀である。結局、母親が息子の背中を押して「嫁泥棒」に向かわせるのである。

(注:キルギスでは末子相続である。)

しかし、今キルギス社会は社会主義時代に続く第二の大波に洗われている。農村の若い働き手の三分之一がロシアなどに出稼ぎに出て、末弟夫婦と老人と子供が村に取り残されている。ロシアに出た若い男女はもはや農村のしきたりから自由である。彼らが生まれ故郷に戻るかどうか分からない。耕し手のいなくなった耕作地は荒れていずれ中農に借り上げられる。農民分解は加速化している。

5. ウズベキスタン写真集

Khiva

16世紀初頭から20世紀初頭まで存在したヒヴァ・ハン国の首都。
旧市街イチャン・カラ(内城)は、1991年にウズベキスタン国内で初めてユネスコの世界遺産に登録された。



イチャン・カラ(内城)



旧市街イチャン・カラ(内城)。城壁に囲まれている。



イチャン・カラの街路 数百年前にタイムスリップした感じ



外城



右上マドラッサを改修したホテル(室内はエアコン、ベッド、シャワーあり) Orient Star

Karakalpakstan (Ayaz Kala等)





Bukhara

1993年、旧市街地世界遺産に登録



アーク城



イスマーイール・サーマーニー廟



広場



路地

Samarkand

2001年世界遺産登録 文化交差路。青いモスク、「青の都」と呼ばれる。



青いタイル



アミール ティムール (グリ アミール) 廟



ウルグベグ: 1394~1449 チムール帝国第4代の君主。チムールの孫。天文学、数学者。一日の長さを25秒の誤差で測定した。右は六分儀。高さ40m(地下11mを含む)、長さ63m。

Tashkent

ウズベキスタンの首都。1966年の大地震で建物が崩壊され、近代的な都市になった。中央アジアで唯一地下鉄がある。下の写真はChorsu Bazaar。





付記

小生2016年10月に烏里烏沙さんの写真撮影ツアーで内モンゴルに参りました。そこに写真愛好家の森さんが参加しており、今回のキルギス・ウズベキスタンの旅にも参加されましたので、今回の写真アルバムは森さんから提供して頂きました。

内モンゴルも珍しい地域であり、その写真集 (クリック/開く) もご覧頂ければ幸いです。